



2023年7月7日

Wリーグ新体制発表 記者会見レポート

7月6日、京王プラザホテル新宿にてWリーグの新体制と、新ステートメントの発表記者会見が行われました。今年25周年を迎えるWリーグですが、初めて選手出身の原田裕花会長が就任し緊張の面持ちながら、「選手経験を生かして選手に寄り添い、未来の子どもたちが輝けるステージをつくっていきけるように頑張りたい」と挨拶し、続けて新任の高橋雅弘専務理事が世界に目を向けたビジョン等を力強く語りました。同じく新任の理事4名（渡邊信治理事、北山節子理事、鈴木万紀子理事、齋藤隆夫理事）、最後に橋本信雄副会長（再任）が登壇し、あいさつとともに所信表明を行いました（以下に抜粋）。

=原田裕花会長=



本日は記者会見にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。この度、会長に就任いたしました原田裕花です。Wリーグでは初のアスリート出身ということもありまして、私自身本当に責任を感じますし、身の引き締まる思いです。会長を引き受けたのは、率直に選手を応援したいという気持ちからです。選手たちが頑張っている姿を、私自身引退してからずっと見て来ました。その中で心から感動するような試合にたくさん出会ってきて、選手に心を動かされて今、この場に立っています。

会長としては未熟ではありますが、選手経験を生かしながら、選手に寄り添い、そして未来の子どもたちが輝けるステージをつくっていきけるように、またWリーグをたくさんの方々を知っていただき、多くの方々に応援していただけるよう努力していきたいと思っています。

これから私がやりたいことの1つは、14チームの選手みんなに会いに行きたいと思っています。オンラインで挨拶などは終わっていますが、実際に会ってコミュニケーションを取り、交流を持ちたいと思っています。

私の背景に（今季の）Wリーグのロゴがありますが、Wリーグは25周年に入りました。私がプレーしていた日本リーグから、今のWリーグまで引き続いてこられたところにOGたちがいますから、そのOGたちの想いも繋ぎながら、そしてWリーグにかかわるすべての人が笑顔になっていけるように精一杯努力して盛り上げていきますので、みなさまのお力添えをよろしく願いいたします。会長として不慣れなところはありますが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

=高橋雅弘専務理事=



今季、Wリーグは25回目の節目となります。振り返ってみますと、この25年間、チーム数の増減やゲーム方式の変化、東日本大震災やコロナ禍もありました。大変難しい時期をみなさまと乗り越えてきたと思っています。この25年間の歴史をしっかりと受け止め、参加全チームが未来に向けたチームづくりができるような組織づくりをしていきたいと考えています。

この後、新ステートメントの発表がありますが、登壇するお二人も選手出身です。彼女たちの意見も参考にしながら、私も専務理事として思うところを少しお話しさせていただければと思います。

まずは25回大会を迎えるに当たり、これまでリーグの発展に携わってこられた歴代の会長はじめ役員、事務方や参加チーム、母体企業、全国都道府県協会、スポンサーの方々、その他関係してくださった皆さま、何より支え続けてくださったファンの皆さまに心より御礼を申し上げたいと思います。先人の方々の心をしっかりと受け止めて、これからのリーグ運営のために「改革と進化」をみなさんと一緒にやっていきたい。そのためにはリーグの試合をより一層質の高いものにしなければなりません。皆さんの心を震わせるような試合を数多く観ていただき、「私もバスケットをやりたい」「応援したい」という感情や感動を抱いていただけるような、発展していくリーグにしていかなければならないと思っています。

また、女子トップリーグという自覚をもって、女子日本代表の強化や普及も、リーグが背負う大きな責務です。日本代表が強くなり、世界で常時活躍できるようになることがWリーグの発展につながり、リーグのプレーの質の向上が日本代表の強化につながる。それが普及やファン拡大の大事な要素になる。そして、それが先人の方々への恩返しになるということを肝に銘じて頑張っていきたいと思っています。

戦力が均衡した試合を数多く開催し、競り合う試合が増えることによってチーム強化や選手強化につながると信じています。勝負強さや大事な場面での駆け引きを数多く体験すること、それが日本代表の実戦経験となりますし、ファンの皆さんにとりましても感動を生み、目が離せない試合となる。そのような、ファンが目を離せないリーグにするために、参加全チームの皆さんと考えながら、夢を追い続けて、夢を届けられるようなリーグにしていきたいと思っています。

国内では、一貫した指導育成体制が整っており、最終的にWリーグが日本代表となり得る選手を発掘し、育成強化を実施してきました。それがJBAとWリーグの発展に直結していると実感しています。その意味でもWリーグは、ジュニアの選手たちが夢を持てるリーグにならなければいけない。日本代表と連携し、子どもたちに目標とされるリーグにならなければいけないと痛切に感じました。

また、女性競技団体が数多く存在していますが、オリンピックやワールドカップ等のビッグイベント以外ではなかなか表舞台で出ることが少ない。普段から関心を持っていただき、TVやマスコミにもっと取り上げていただくためにWリーグはもちろん、もっと女性スポーツが日常に広く認知・関心を持っていただけるような努力とともに、各競技団体と連携できることはないかと思っています。

これはまた大きな夢になりますが、これまでの東アジア地区の交流（韓国や中国、チャイニーズタイペイ）にとどまらず、オセアニアも視野に入れたクラブ交流、クラブチャンピオンシップ等の開催も視野に入れ、その先にはアメリカやヨーロッパ、アフリカなども含めた世界規模のクラブ選手権が開催されなければならないのではないかと考えています。

最後に、『スポーツで日本を元気にする』『バスケットで日本を元気にする』『Wリーグで日本を元気にする』この言葉を肝に銘じて、女子バスケットボールのみならず、女子スポーツ界の発展も視野に入れて、これからもさまざまなミッションに全力で精進してまいります。

皆さまのご協力、ご支援、ご指導を切にお願い申し上げます。

= 渡邊信治理事 =



4月1日より、JBAの新しい事務総長を務めることになり、この度Wリーグの理事も拝命いたしました。原田新会長、高橋新専務理事よりものすごく力強い御言葉をお聞きしまして、JBAとしてもしっかりと女子バスケ、Wリーグを発展させるよう協力していかなければならないと肝に銘じているところであります。私の役割としましては、オールバスケットという観点で、高橋専務理事からもありましたように、Wリーグと連携を図り、さらにリーグを発展させ、世界で活躍できる選手を育み、強化につなげていくことだと感じております。ぜひよろしくお願い申し上げます。

=北山節子理事=



私はアパレル業界出身で、元婦人服の販売員です。今、みなさまの熱い言葉をお聞きして、『私も応援したい！』そう強く思いました。私は女性が活躍し、女性が輝ける職場で経験を積ませていただきました。今は「接客アドバイザー」として執筆や講演をさせていただいています。

バスケットボール未経験の私ですから未熟なところは多々あると思いますが、今後、学びを深め、Wリーグの選手たちの鍛えられた体と心をさらに輝

かせられるように、微力ではございますが応援させていただきたい、お手伝いさせていただきたいと思います。Wリーグのさらなる発展のため、皆さんにご教授いただきながら、私も精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

=鈴木万紀子理事=



私自身は、いわゆる体育会系でさまざまなスポーツに親しんでおり、7年前にB.LEAGUEのスタッフとして関わるようになり、バスケットボールの魅力を知ることとなりました。現在は女性のQOL向上を目指し、そのお手伝いをする会社の経営をしております。

昨今、SDGsやBSG投資といった観点から、スポーツのリーグやクラブ、そしてアスリートの社会的な価値を見直すというような動きが出てきていると思います。その中でも女性のスポーツというのは特有の価値があると感じております。女性スポーツをけん引する存在であるこのWリーグで、多くの魅力をたくさんの皆さまに伝えて行き、Wリーグに関わるすべての皆さまがハッピーになれるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

=齋藤隆夫理事=



私はデンソーアイリスの部長を務めさせていただいております。今回、理事を拝命すると同時に、理事会の諮問機関である（参加14チームの部長・代表による組織）運営部会の部会長も務めさせていただくことになりました。14チームはそもそもの成り立ちや運営の形態など様々で、チームごとに目指すところは微妙に違っていることもあります。後ほどご説明がありますが（新ステートメント）、新しいフィロソフィーというものを、14チームで一丸となって全力で目指して行く。そういったところで微力ながら貢献して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

= 橋本信雄副会長 =



昨季に引き続き副会長を務めさせていただくことになりました。さまざまな立場で、時には中から、時には外からこの W リーグと長く深く関わって参りました。その中で、先ほど高橋専務理事もおっしゃっていましたが、日本の女子バスケットボールの国際大会における競技力と、W リーグの繁栄・発展は両輪のような関係であるということを感じております。また新しい体制の下、そのような女子バスケットの両輪を常に意識し、女子バスケットや W リーグの発展に微力ながら貢献して参りたいと思います。どうぞ引き続き皆さまのご支援・ご協力の程何卒よろしくお願いいたします。

——みんなに「W」を。～VARIETY VALUES W LEAGUE～

その後、有明葵理事、伊集南理事による進行で、ステージ上のモニターに映し出された新ステートメントの発表が行われました。両理事からは従来のステートメントから今回のステートメントへのリニューアルに至った経緯と背景の説明がありましたが、その中の 1 つが東京オリンピックでの銀メダル獲得という女子日本代表の快挙。「世界に通用する強い日本を証明し、多くの方々に感動を届けられたと考えています。この大きな出来事がターニングポイントとなり、さらには通過点をとる考えの下、W リーグ 25 周年の節目にリニューアルされることになりました」（有明理事）。そして作成にあたっては、「プロジェクトメンバーを中心に半年以上をかけて議論してきました。『バスで日本を元気に』という JBA の理念のもと、W リーグがどのような存在になっていけるのか。W リーグや日本の女子バスケ界が持つ価値や強みなどを追求し、W リーグのありたい姿を想像し、（新ステートメントを）形づくってきました」（伊集理事）という内容の説明がありました。

新ステートメントに掲げられた【ビジョン】については、その実現のための具体的な取り組みについて長崎俊也事務局長から説明がありました。

（オフィシャルサイト参照：<https://www.wjbl.org/topics/detail.html?id=3421>）

【ステートメントワード】

みんなに「W」を。～VARIETY VALUES W LEAGUE～

【理念】

バスケットボールを通じて多彩な力を結集させ、元気・感動・勇気を届け、笑顔あふれる社会に貢献する。

【ビジョン】

- ・世界最高峰の競技力と挑戦し続ける姿勢で「世界中の目標となるリーグ」へ
- ・する人・みる人・支える人が一つとなって「日本中に笑顔を届けるリーグ」へ
- ・社会で働く人を育み、人生を豊かにする「Well-being なリーグ」へ



※写真＝左から「有明理事・伊集理事の新ステートメント発表の様子」「有明理事」「伊集理事」